

第2回熊本市河川整備計画策定委員会 議事録

【1】日 時 令和4年3月23日（水） 10:00～12:00

【2】会 場 熊本市教育センター 3階 第2研修室

【3】出席者

〔委 員〕

大本委員（委員長）、柴田委員、竹内委員、松崎委員、皆川委員

〔事務局〕

熊本市：米村土木部長、松窪河川課長、中島副課長、杉村主査

【4】議事概要

・健軍川、藻器堀川・保田窪放水路の河川整備計画修正案について

【5】主な質問・意見の概要

〔委員〕・健軍川については、資料 1 P.3「熊本土木物語」、資料 1 P.5「土地利用の変遷」、藻器堀川については、航空写真等に出典を明記した方が分かりやすい。

・資料 1 P.6 の河川の写真に撮影年を入れ、和暦と西暦を併記したほうがよい。

〔事務局〕・出典については、巻末一覧等でまとめ、写真の撮影年を和暦・西暦で記載する。

〔委員〕・資料 1 P.7 水質について、硝酸性窒素のデータが追加されているが、リンの値が上がっているのが顕著だと思う。リンではなく硝酸性窒素のデータを記載しているのはなぜか。

〔事務局〕・環境基準の項目追加により、平成 11 年以降、硝酸性窒素濃度について、観測を行っている。リンについては観測結果の有無を確認する。

〔委員〕・資料 1 P.11 に気候変動への対応として、流域治水が追記されたのはよい。ここで、図 3-3 で雨水浸透ますの図があるが、文章中に浸透対策という言葉が出てこない。雨水浸透ますや雨庭は、貯留と浸透を組み合わせた対策なので、浸透対策としての記載も必要。

〔事務局〕・浸透対策としての内容を追記する。

〔委員〕・資料 2 P.2「沿川の生活の場に利用されていた。」に唐突感がありわかりにくい。

・資料 2 P.3 妙見池の位置が分からないので図示したがよい。

〔事務局〕・文言を再考する。また、妙見池の位置を図示する。

〔委員〕・河川整備計画では 20～30 年の間に具体的な治水対策の記述が必要なのでは。

・熊本市では地下水が重要。他の流域とは違う。浸透も地下水の一部と言える。地下水の涵養と言ってもやり方を間違えると汚染になる。

〔事務局〕・健軍川でいえば、資料 3 P.24 に、「河川整備の実施に関する事項」を記載し、施行区間や橋梁改築、遊水地の整備位置を具体的に記載している。

〔委員〕・健軍川は都市の排水路という性格が強いため、水面が見える状態にするか、流下能力は落ちるが暗渠化し、その上を遊歩道のような形態で活用するか、総合的な判断が必要だと思う。川なのか、雨水排水路として捉えるかで取り扱いが異なる。

〔事務局〕・河川法上の一級河川であることから、排水路ではなく河川である。

〔委員〕・現在の健軍川の下流部の一部で、国道 57 号や県庁通りと交差する付近までであるが、江戸期の絵図に記載がある。周辺の湧き水が川となり、時代とともに、上流からの水が流れ込み、今の形態になったのではないかと思われる。そのため、歴史的な観点から、江戸期の絵図を河川整備計画に掲載するとよいのではないか。

〔事務局〕・該当する絵図を確認し、掲載したい。

〔委員〕・資料 3、4 の P.2 の地形図で標高だけが記載されているが、もう少し地形区分を丁寧にしてはどうか。湧水的位置や河川の成り立ちが分かりやすくなり、地形を

見せることがハザードマップにもつながってくる。

〔事務局〕・ご指摘を踏まえ、地形図の修正を検討したい。

〔委員〕・資料 1 P.9 河川整備計画の基本理念が第 3 章となっているが、河川整備計画の頭書に記載する必要はないか。

〔事務局〕・現在の案では、第 1 章で河川の概要、第 2 章で河川の現状と課題を記述し、それらを踏まえ第 3 章以降で、どのような河川にしていくのかを記載しており、その第 3 章の冒頭に河川整備の基本理念を記載している。

〔委員〕・さきほど、参考文献や年次などの詳細を明記したほうがよいという意見あったが、資料 1 P.4 表 1.4 の「流域の地目別面積一覧表」、資料 3 P.4 図 1.6 の「年間降水量の比較」などについても、いつ時点の数字なのか明記したほうがよい。

〔事務局〕・確認して記載したい。

〔委員〕・資料 1 P10、11 の避難行動に関して、3.4.3 と 3.4.6 は整合させたがよい。3.4.3 では、タイムラインについての記述はあるが地域版ハザードマップについては記述がない。一方、3.4.6 はハザードマップの記述はあるがタイムラインについては書かれていない。

〔事務局〕・ご指摘を踏まえて記載を修正する。

〔委員〕・P.10 「自主防災クラブやの結成や校区防災連絡会の設立」とあるが、設立後の活動が課題になっているので、「設立」だけでなく、「活動支援」という言葉を入れてもらいたい。

〔事務局〕・ご指摘を踏まえて記載を修正する。

〔委員〕・P.11 3.4.6 「要配慮者利用施設の避難確保計画作成促進」とあるが、高齢者施設等の施設だけでなく、要介護者そのものに関する避難確保計画が必要なので、そのあたり誤解のないような記述に変えてもらいたい。

〔事務局〕・ご指摘を踏まえて記載を修正する。

〔委員〕・資料 1 P.2 「大正以前は」とあるが、「大正以前から」が正しい。

〔事務局〕・ご指摘を踏まえて記載を修正する。

〔委員〕・健軍川よりも白川の方が危険度が高いため、ハザードマップは白川からの浸水を想定して作っているはず。健軍川を想定したハザードマップはないのではないかな。

〔事務局〕・ハザードマップについては、白川や緑川などの流域で各河川の浸水想定を重ね合わせたものが確認できるようになっているが、そのもととなる浸水想定区域図は河川毎に作成している。

〔委員〕・健軍川は熊本市内の雨によって生じる氾濫。一方、白川は阿蘇流域の問題であって、熊本市内にいくら雨が降ったって白川が氾濫するわけではない。健軍川は、

市内で異常な雨が降った場合の、中小河川の氾濫ということになる。白川を含むハザードマップは、健軍川による浸水想定ではないので、その辺りの違いは、住民に説明する場合は注意が必要。

- 〔委員〕・健軍川の浸水想定区域は公開されている。住民から見るとそこまで水が来るとは思える状況ではない。健軍川や藻器堀川は内水の頻度が高く、それが対策によってどうなるかが分かったほうが、住民にとっては明確である。その上で、P13に氾濫の写真が記載されているが、P20以降の改修により改善されるのだろうか。
- 〔事務局〕・P13に示されているのは、未整備区間の状況であり、今回の整備計画に定める改修により改善される。また、P20に流量配分図を記載しており、未整備区間は45m³/sの区間であり、下流は60m³/s、70m³/sを確保する整備をしているので、上下流バランスを考慮した整備により、河川からの溢水をなくしたいと考えている。
- 〔委員〕・P20以降が本題で、なにがどう改善するのかを見えやすくしたほうがよい。
- 〔委員〕・健軍川は粗度が大きい、勾配がきついので暗渠のほうが合理的だが、川としては、暗渠は死んだ川になる。暗渠でなければ、流下能力だけでなく、もう少し市民が親しめる整備が必要になってくる。上流を改修するという一方で、下流は対象ではないと思うが、沿川を歩き、見て、課題を考えることが重要である。
- 〔事務局〕・河川法上の一級河川なので、2面張で整備を行いたい。
- 〔委員〕・基本理念が、健軍川と藻器堀川で同じものが入っている。近くにある川ではあるが、それぞれ個性があるので同じ理念で整備することはないと思う。地域住民に親しまれる川づくりとあるが、どういう意味なのかわからなかった。その辺を、住民意見を踏まえて入れるとか、江津湖との関係を踏まえて入れるとか、理念にもう一步踏み込んだものがあつたほうがよい。
- 〔事務局〕・資料3 P13に河川利用として一部区間を抜粋して記載しているが、縦断的に距離がある中で、上流、中流、下流で、川との親しみの形が違う部分もあるので、もう少し細やかに示すことで、住民意見をいただけるように整理したい。
- 〔委員〕・現状と課題がある中で、3章の冒頭にその反映がされていない。上流や下流のイメージが記載されている他の河川整備計画を参考にしながら、検討してもらいたい。
- 〔委員〕・藻器堀川についてですが、堀川とついている。一般的に、堀川とは人口的に掘られたもので、井手であれば農業用水。江戸時代末期の絵図で白川から江津湖までつながっていた。一方で、白川は、江戸時代は舟の通行が禁止されていた。そのため、藻器堀川は物流のために掘られた川ではないかと考えられ、そのような認識が前段として必要である。
- 〔事務局〕・藻器堀川は、神園山からの水と湧水等が集まり川となっていたようであり、国分寺の塩桶を洗った経緯から「しおおけぼり」が語源となったなど諸説ある模様。
- 〔委員〕・放水路については、出水時と平水時の流量はどうなっているのか。下流は湧水が

あるから別だが、平水時に藻器堀川はほとんど水がない。流域で見るともう少し水があってもいいと思う。出水時のみ放水路に流れて、普段は藻器堀川に流す方が良く思う。

〔事務局〕・藻器堀川の下流では流下能力が厳しい所があり、ゲリラ豪雨的な雨が合った場合に水門操作が間に合わないおそれがあるので、放水路に流れるようにしている。

〔委員〕・正常流量、維持流量はないのか。

〔委員〕・都市河川としての魅力が少なく、昭和 40～50 年代の川の印象があるが、今なら修正する技術手段はあり、市民の要求があるか、あるいは市がどのように提供できるかということ。江津湖との関係が見逃せず、治水のみでなく環境を入れた整備計画にする必要がある。

〔事務局〕・全体計画が昭和 47 年にできて、それに沿って河川整備を実施してきた。

〔委員〕・環境の課題として、江津湖にマイクロプラスチックが入るのは主にこの 2 河川なので課題として記載が必要ではないか。

〔委員〕・資料 3 P12 に改修前後の写真があり、矢板護岸からコンクリート護岸へ改修されているが、一般の方にはわかりにくい。ここは、年月日を示すことでの対応になるかと思うが、この改修が都市河川の問題だと感じる。

〔委員〕・今回は上流の未整備区間がターゲットだが、下流の改修済み区間で多自然川づくりなど再整備は整備計画に書けるのかどうか。違う計画が必要なのか。

〔事務局〕・整備計画は 30 年間の整備をどこまでやるかを記載している。治水上は、未整備区間をどうするかが大事であるが、環境面も取り組んでいこうと考えている。

〔委員〕・普段水が流れないので、生態系を議論することに無理がある。

〔委員〕・P25 断面に改修方針の図があるが、石の配置、植生など多自然川づくりのイメージとそこにどのような生物が生息することができるかを、健軍川、藻器堀川ともに記載したがよい。

〔委員〕・1 月、2 月に何度か健軍川を歩いたが、水がない。流れている期間とかを把握することも必要。

〔委員〕・県立大学の付近に水はある。冬はたまっている。

〔委員〕・たまった水でもヤゴなどは生息したりするし、水がないから子供が近づきやすいし、鳥なども来る、多自然川づくりなど場を作ることはできる。

〔委員〕・夏場は水が臭うときがある。

〔事務局〕・沿川の下水道整備は完了している。

〔委員〕・健軍川は出水時にゴミなどが江津湖に入らないような仕組みを考えることが大事。それと流下能力を上げるとき川底は粗度がとても大きいので、床止めなどの形態

もあるが、下流はまだまだ流下能力は上げられる。暗渠がよい。

〔委員〕・河川空間は重要。

〔委員〕・防災上も川は見えたほうがいい。川への関心を常に持ってもらったほうがいい。

〔委員〕・健軍川は溢れた場合は怖い川。川沿いは川と一体で流れるので安心できる場ではないと思う。

〔委員〕・河川で活動している方はいるのか。

〔委員〕・江津湖での活動はあるが、健軍川をどの程度取り組んでいるかは確認した方がいい。入口までは一体で実施している可能性が高い。

〔委員〕・県立大学の学生では、現状、健軍川での活動は行っていない。住民意見聴取はどのように実施するのか。

〔事務局〕・意見聴取はパブリックコメントや流域沿川の自治会等に声をかけ、近くに住む方の意見が聴取できるような方法を考えている。

〔委員〕・健軍川はゴミ捨て場にはなっていないか。

〔事務局〕・川沿いは市道もあり、開けているので、あからさまにゴミなどを投棄できる環境ではなく、ゴミ捨て場にはなっていない。

〔委員〕・河川で活動している人を把握することが大事。

〔委員〕・健軍川は環境で意見が出ない可能性がある。

〔委員〕・ゴミ、におい、アシをとるなど要望は出てくると思うが、それ以上の意見を引き出すにはどうするか。

〔委員〕・授業で魅力を探すような手法もある。

〔委員〕・河川内には、高低差があり、危険な場所も多い。

〔委員〕・現状分析で、普段水がある所、無いところの整理はされているか。あれば、いれておいたほうがよい。

〔事務局〕・雨が降っていないときのたまりの位置など、現状分析は行っている。

【6】今後のスケジュールについて

〔事務局〕・今回委員の皆様からいただいたご意見については反映状況を委員長に確認いただいた後、住民意見聴取を行いたい。その後、住民意見を反映した河川整備計画案を第3回委員会で提示したい。

(委員了承)